



TITLE:

彙報

AUTHOR(S):

CITATION:

彙報. 經濟論叢 1938, 47(6): 894-894

ISSUE DATE:

1938-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/131175>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷 第六號

昭和十三年十二月一日發行

論叢

幕末の出貿易……………經濟學博士 本庄榮治郎

投資節約の均等について……………文學博士 高田保馬

商品リンク制の發展……………經濟學博士 谷口吉彦

時論

日本銀行の國債引受と財政經濟……………深井英五

戰爭の意義と共同體的國內革新の急務……………經濟學博士 石川興二

研究

獨逸の植民問題……………法學士 前田稔靖

中小工業としての下請制工業……………經濟學士 田杉競

說苑

鮑屑錄……………法學博士 財部靜治

農業經營に於ける日支の異同……………經濟學士 菊田太郎

附錄

彙報

外國雜誌論題

本誌第四十七卷總目錄

彙報

經濟學會

○十月例会 十月二十二日(土)午後六時より樂友會館に於いて開催。次の視察談が行はれた。

一、朝鮮滿洲および北支視察談

中川助教授

中川助教授は、大連・奉天・新京・ハルビン・天津・北京・京城等各大都市に於ける社會問題および社會施設に就いて報告された。そのうち滿洲國一般の問題は、本誌前月號所載の同助教授の論文『滿洲建國精神と協和會の使命』に於いて詳細に論ぜられてゐる。

二、北鮮および滿洲視察談

谷口教授

谷口教授は北鮮に就いては産業状態を、北滿に就いては移民状態を、南滿に就いては軍需工業の情勢を報告せられた。先づ北鮮の産業が巨大なる水力發電事業のために如何に各地に勃興しつつあるかと云ふことを、鐵工業・化學工業・紡績工業の各々に就いて現實の情勢を談られ、北滿の移民に就いては、移民の地主化と云ふことが將來の問題であることを指摘せられ、次いで南滿の各軍需工業の發達を詳細に述べられ、最後に、金ブロックに於ける貿易の問題に論及せられた。――十時十分閉會。

當日の出席者。本庄・高田・汐見・作田・石川・谷口・八木大塚・中川・柴田・堀江・中谷・白杉の諸先生。青山・田杉・

出口・熊本・石田・山本・三谷・宮本・前田・青盛・澤崎・堀江・岡部・有田・鈴木の諸氏。

○會員動靜

赤石 二郎	神田區松住町庶民金庫(電下谷一六一)
石峰 喜一郎	東京市澁谷區千駄ヶ谷三丁目五二三
伊東 英哲	辯護士事務所 神戸市神戶區下山手通七ノ一七 (電元町三三三三、四一四〇)
植田 輝夫	自宅 神戸市神戶區中山手通七丁目七九四
宇野 敏夫	東京市京橋區小田原町三丁目 海軍經理學校
江崎 廣次	拉濱線五常稅捐局内
岡本 傳三郎	東京市大森區馬込原二丁目一、〇〇四
大迫 重男	東京市大森區新井宿二ノ一四七三 原田方
大井 正義	東京市大森區新井宿二ノ一四七三 原田方
大上 末廣	内海紡績株式會社大阪營業所
鹿子木 靖	大阪市住吉區墨江三丁目四八
香川 正一	吉林市敷島街二〇ノ二一ノ六
西郷 正二	京都市上京區寺町通石藥師下ル
高橋 武	東亞研究所研究主事
田端 拓二	東京市世田ヶ谷區下代町三〇三
傳 寶修	扶桑海上火災保險株式會社奉天營業所
	奉天市高千穂通七高千穂閣
	兵庫縣川邊郡立花村七ツ松三八七
	東京市澁谷區南平台町四一
	富士瓦斯紡績株式會社
	東京市大森區市野倉町三八
	兵庫縣阪急沿線夙川壽町三四
	厚生省保護院簡易保險局監理課調査係
	東京市中野區大和町一四七